

EURASIA BOOK

K・A・ウィットフォーゲル著
平野義太郎監訳

新訂・解体過程にある
中国の経済と社会
(下)

原書房発行

検 印
廃 止

ユーラシア叢書 19

新訂・解体過程にある

中国の経済と社会（下）

定価 6,500円

昭和五十二年九月一日 印刷
昭和五十二年九月十日 発行

著 者 K・A・ウィットフォールゲル

監訳者 平 野 義 太 郎

発行者 成 瀬 恭

印刷所 羽 生 写 真 印 刷 株 式 会 社

製本所 佐 拔 製 本 所

発行所 株式 会社 原 書 房

東京都新宿区新宿一―二五―一三
振替口座 東京五―二五―五九四番
電話〇三（354）〇六八五番（代表）

落丁、乱丁本はおとりかえいたします。

3322-20240-6945

解体過程にある

中国の経済と社会（下）

目次

第二編 中国の經濟過程の諸基本特徴(統)

第一章 農業的生産過程 (上卷所収)

第二章 中国における農業生産の干与機關としての国家…………… 3

一 治水事業・水利工事 3

1 インドと中国とにおける、公共的および私的水利工事諸施設 4

2 中国における政治的支配の基礎には、常に官権の社会的な活動があつたか? 9

(イ) 禹帝以前 9

(ロ) 禹より周の末期まで 11

(ハ) 米作地域の包括以後 18

(ニ) 清時代の末期 31

(ホ) 現在 44

二 天文学 46

第三章 広義の農業……………50

一 牧 畜 50

1 園芸式耕作の範囲内における広義の農業 51

(イ) 牽畜および役畜 51

(ロ) 衣食用家畜 53

2 辺境地方 54

3 絹の生産 56

二 養 魚 63

三 植 林 68

第四章 前資本主義的中国の生産過程の工業的方面……………84

一 中国の農業社会における工業上の欲求 85

1 村落の欲求 86

2 封建的および官僚的國家の諸欲求 89

3 商業ブルジョアジー——中国の工業的發展の結果にして動力たる 91

二 中国の工業（その歴史的考察） 93

三 中国における手工業およびマニファクチュア 98

1 ヨーロッパと中国 98

2 諸基本型 100

(イ) 生産および商業の小経営 102

A 独立の手工業 102

B 賃仕事 (Lohnwerk) 103

(ロ) 生産の小経営・商業の大経営 107

(ハ) 生産および商業の大経営 107

四 社会の内部における分業と、工業的経営の内部における分業 108

1 社会的分業 110

2 工場制手工業の内部における分業 115

(イ) 製塩業 116

(ロ) 鉄および石炭の生産 126

(ハ) 本来的な工業における工場制手工業 148

五 手工業的小経営 161

1 アジア的手工業の二つの特性 161

2 中国における手工業者の同職組合の機能および権限 165

典 拠 167

- (1) マルコ・ポーロ (2) マックゴーワン、モウルス、ナヴァツラ、メーボン
(4) ギャンブル、バージェス (5) ザ・チャイニーズ・エコノミック・マンスリー、ジャーナル、ビュレタン

3 前資本主義的中国の工業における隷属的労働者の状態 189

(イ) 手工業的見習職人 190

文献的記録 204

(ロ) 中国のマニユファクチュア経営における賃銀労働者の状態 209

国家的労働の枠内における徭役および賃労働者——旧式の私的大経営内の労働者——奴隷——自由賃銀労働者——児童労働

(ハ) 独立のおよび賃銀労働者の産業労働者の地方的偏狭性 224

ツンフト——賃銀労働者

(ニ) 婦 人 229

六 家内工業 (Hausindustrie) 231

1 段階および形態 231

I 自家用のための家内工業(「家内仕事」Hauswerk) 235

II 家内工業的商品生産(狭義の「家内工業」) 235

1 独立的なもの 2 非独立的なもの

2 家内工業的商品生産の主要担当者 237

3 都市および農村における家内工業 237

(イ) 都市家内工業 238

(ロ) 農家内部における家内工業 244

4 価格と賃銀 251

5 中国における家内工業の社会的意義 262

七 早期資本主義的發展の萌芽——にも拘らず何らの自然科学が発生しない 269

第五章「アジア的」な中国における運輸、商業および利附資本の経済的機能……… 278

一 運輸産業 279

1 従来の中国における交通諸關係の二分類 279

2 陸上運送 281

3 水上交通 286

(イ) 型の大小——經營形態 287

(ロ) 所有諸關係 291

(ハ) 意義 293

二 中国商業資本の経済的機能 294

1 商業資本の歴史的地位 294

2 商業資本の組織 299

(イ) 流通過程の編成 299

(ロ) 商業資本的個別経営の形成 303

(ハ) 商人ギルド 306

3 商業資本および商業利潤 312

三 従来の中国における高利貸資本、貨幣取引資本および貨幣Ⅱ金融業資本 318

1 中国における高利貸資本の特徴と機能 318

2 アジア的な中国ではだれが高利貸を営んだか？ 326

3 高利貸機構・その利潤・その結果 330

(イ) 質屋 330

(ロ) 担保能力あるあらゆるものの質入 334

(ハ) 高利貸の奸策——高利貸の誅求する高利 336

(ニ) 結果 338

4 「頼母子講」式の庶民的金融機関の団体 340

5	「アジア的」な中国における銀行	344
(イ)	総 説	344
(ロ)	中国銀行の地域的来歴——経済的起源	345
(ハ)	旧中国銀行(錢莊)の諸機能(貨幣取引)	347
(ニ)	機能(信用授与)	350
(ホ)	中国銀行資本の意義	353
附録	「アジア的」中国の経済的総行程の概観(第一次的把握)——中国の経済 タフロー・エコノミク 表	357
ウィットフォーゲル	「中国の経済と社会」評(クルト・ザウエルラド)	363
新訂版への監訳者あとがき	(平野義太郎)	373
索引		
挿 図	桑葉の摘採(第17図)	57
	金属の精錬(第19図)	131
	金属の精製・加工(第21図)	149
	油搾り(第23図)	156
	塩井設備の模型(第18図)	122
	中国の採炭場の図(第20図)	143
	仕立屋(第22図)	154

第二編

中国の經濟過程の諸基本特徴（続）

第二章 中国における農業生産の干与機関としての国家

一 治水事業・水利工事*

中国の各地方における水の役割を分析するに当って、われわれは、各個々の生産「原細胞」の活動範囲を超えた幾多の諸事実に遭遇した。例えば、東北地方では水の統制・調節が、その防禦工事をもつてはじめて一般に農業労働を可能ならしめ、あるいはまた、北部・中部および南部中国では、治水こそが人工的灌漑の形態において、あらゆる集約的耕作の基礎であつたのであつて、いずれにせよ、この水の統制・調節なるものが、その完成のためには大規模の労働を必要とし、この大規模の労働が、大部分、地方および村落の能力の限界を遙かに——最低生産単位としての農家の能力がもつ限界は全然論及しない——超えるのである。ほとんどすべての中国の農業に関する叙述（したがって全体としての中国農業社会の叙述をも）を誤らしめ、または科学的に不十分ならしめるものは、実にこの関係に対する顧慮に欠点があるか、あるいは全然欠けていることである。

東洋文明の発展段階において、マルクスによると、かかる灌漑水利事業問題は、その「面積が、自然発生的の統一を実現するためには余りにも広大にすぎたので、中央集権的政府権力の干渉を齎らした。そのことが、あらゆるアジア的な諸政府の経済的機能——政府的治水土木事業^{（*）}遂行の機能を生んだのである」。このゆえに、マルクスの見解に

よれば、小規模水利工事——マルクスは灌漑と排水とについて述べている——では、とうてい、用に足りない独特な「東洋的」、「アジア的」な其所の農業諸社会においては、国家は、農業生産の物質的基礎——部分的にまずこれを創造し、そしていかなる場合にもそれを維持し保護しつつ——に干与するところの中央機関である。われわれは、(一)中国にこのような治水事業・水利工事の大問題が存在したかどうか、(二)国家が、実際にこの課題の解決にむかつて非常に注意をむけて、極力それに傾倒する立場にあったかどうかを考察しよう。

【註】 カール・マルクス「支那および印度について」ドイツ版『マルクス主義の旗の下に』誌、第一年度、二号、三八六頁（改造社版『マルクス・エンゲルス全集』六卷、九一—九二頁。小林良正訳、四六頁。大月版『全集』第九卷、一二三頁。）

【註】 前掲書、三八七頁（邦訳『全集』同上、九二頁。小林訳本、四七頁。大月版『全集』第九卷、一二四頁。）

* Maebauhに充つ——「治水」とは河の氾濫を防禦し、水流を疏通するをい（水経註曰、好學多苦善能治水、「水利」とは、水を利用して田畠などに灌漑することをいう（史記河渠書曰、用事者、爭言水利。又、曰、至今皆、得水利、民人以能足）（大辭林による）——訳者。

** die öffentlichen Arbeiten の öffentlich は「公共的」ではあるが、「政府の」または「国家の」を意味し、Arbeit は、むしろ「事業」であるが、両者を熟させるときには、主として「治水土木事業」を指すものであるから、単に「公共事業」となす従来のこの箇所訳語は必ずしも正確ではない。むしろ、この「支那及び印度論」のこの箇所では、「政府的治水土木事業」とするのが適訳と考えられる。

1 インドと中国における、公共的および私的水利工事諸施設

まず劈頭に、中国の生産組織の範囲における一切の水利工事のことごとくが、必ずしもその完成のために超地方的な力の干渉を必要とする要求をしたのではないし、またするのではないという事実が指摘されねばならぬ。中国の各地における水利工事状態に対する私の系統的総観は、まさにまた、この問題の解明にも役立つのである。しかしながら、地方的・孤立的な水利工事作業の存在は、水利工事のような大規模な仕事を必要とする工事における、ある国家

的活動の社会政治的意義および活動を止めさせることになるものではない。マルクスおよびエンゲルスは、常にインドをもつて、国家権力の農業に対する「アジア的」特徴をもつところの干渉（公共水利工事作業による干渉）の古典的諸国の一つとしていた。^(三)それと同時に、インドにおいては、国家的治水工事設備とともに、個人的の水利工事が最も注目すべき役割を演じた。われわれはこれを、インドにおける英国人の支配の開始期ごろについていうのではない。この開始期では、英国人は、従前、政府によって管理されていた灌漑事業を放任して、農業上の大損害を招いたのであった。^(四)

われわれが論ずるのは、英国人が、彼らの失政および彼らの財政的細工に基く破滅的な結果のため、やむなく——むろん、ただ彼らの収入増加のために——積極的な水利工政策をとった現在に關してである。^(五)この段階において、われわれは、インドにおける自然的水源のいろいろな種類に、だいたいにおいて——必ずしも完全にではないが——

水利工事設備の種類	灌漑面積	全灌漑面積に 対する割合	合	私 業 的	事 業	合	計	総 計
運河	一五、六四四、〇〇〇	三五・五%	運河	運河	運河	運河	運河	運河
灌水池	二、九四四、〇〇〇	六・七	灌水池	灌水池	灌水池	灌水池	灌水池	灌水池
井戸	一八、五八八、〇〇〇	四二・二	井戸	井戸	井戸	井戸	井戸	井戸
その他の水源	一、二三五、〇〇〇	二・八	その他の水源	その他の水源	その他の水源	その他の水源	その他の水源	その他の水源
	五、一九四、〇〇〇	一一・八						
	一二、八九五、〇〇〇	二九・二						
	六、一八六、〇〇〇	一四・〇(六)						
合	二五、五一〇、〇〇〇	五七・八	合					
総計	四四、〇九八、〇〇〇	一〇〇・〇	総計					

従うところの国家的役所と地方的役所との間に、水利工事機能のある分布を見る。二十世紀のはじめにおける分布は、だいたい下記のようなものであつた。^(七)

これらの諸記載は、きわめて教示に富んでいる。これによれば、井戸は、全部私的事業であつて、それはまた實際の性質からしても、この給水の小規模な形態に適合しているのである。井戸の異常な普及を注意せよ（なおインド灌溉委員会の報告にもあるごとく、この普及は、地下水状態に適応するように、すなわち決して均等ではなく地上に分布されている）——ほとんど全灌溉地の三分の一が、灌水を井戸からとっているのである！小規模なために、なお主として地方的の力によって設備され管理されている小「貯水池」の意義もまた、それによって灌溉される面積の点からいえば、少なからざるものである。これに反して、その大多数が国家の手にある大なる貯水池および特に運河にあっては、この関係はまさに反対であつて、「個人的」の運河によって灌溉される耕地面積は、運河の灌溉する全耕地面積のわずか七・三％である。かかる二つの決算的数字は最も興味あるものである。これらは「アジア的」インドにおいて、しかも英国政府がすでに積極的な——そして彼らの収入のために最も有利な——水利工事政策に移った時期において、国家的設備による灌溉地はわずか四二・二％にして、全灌溉耕作地の半ばにも達していないことを示しているのである。

国家的設備によって灌溉される土地と、私的設備によって灌溉される土地との関係についての数表上の類似は、私の知るかぎり中国に関しては存在しない。便宜的に、日本の灌溉数字を中国および朝鮮に適用せるキングの方法^(九)に似た方法をもって、インドにおける割合を中国に当てはめることは、賛成できないところである。中国の水利工事の、本質的に種類の異なる諸自然的基礎には、また必然的に異なつて形成された水利工事の諸形態が対応するのである。特にその影響を及ぼすものは、中国の北部地帯における黄土の存在である。北西地方の「山岳黄土」(Barlöss)、が、いかに甚しく灌溉工事設備の建設を困難ならしめるかがよくわかるのであつて、ここには、大きな灌溉池は全くな